

(採)

2. Plagidae オキクラゲ科

Dactylometra pacifica Goette あかくらげ 1609

Porifera Non-Calcarea Cornacusponigida

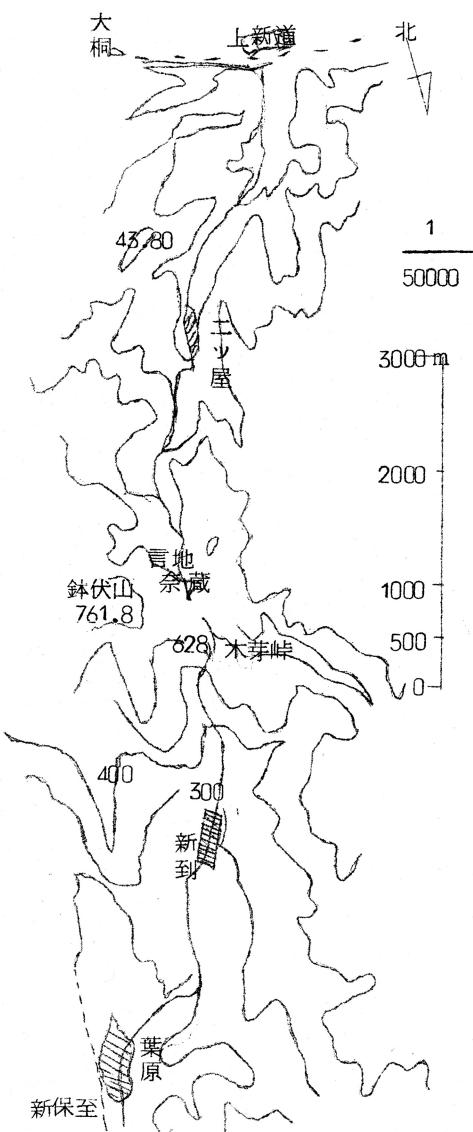
海綿動物 無石灰海綿綱 硅角海綿目

1. Gelliidae ゲリウス科

Reniera japonica Kadota だいだいいそかいめん 1681

伊藤十治記

南条郡木の芽峠方面植物採集記



昭和35年6月12日午前9時山にはさまれた大桐駅に下車した参加者一行45名は、晴天のもとで早速堀先生の御指導によつて、北陸路の木の芽峠を目指して、鉄道沿線の路傍の植物採集からはじめられた。

オオイチゴツナギ、ドジョウツナギ、カモジグサ、トボシガラ、イチゴツナギ、カニツリグサ、ナギナタガヤ、ヌカボと季節的にホモノ科の植物が目立つ。アキカラマツ、ゲンノショウコ、ホタルブクロ、ヒメスイバ、ヒルガオ、ボタンズル、キクイモ、オニノゲシ、カラムシ、ゼンマイ、タチイヌノフグリ、ニシノホンモンジスゲ、カキドウシ、カスマグサ、オヤブジラミ、カラスウリなど小高い鉄道路堤の乾燥地に、ヤマフジ、ノイバラ、アオキの灌木と混生して三層の断面構成で自生していることが観察される。

溝の水辺では、トゲソバ、ヌマダイオウ、クサヨシが採集された。上新道より右折しニツ屋にむかう、山麓陰地にはクシヤクシダ、サトメシダ、オオサトメシダ、ヤワラシダ、ゲシゲシシダ、イヌワラビ、ミヅシダなどのシダ類が採集され、路傍には、ホツコクアザミ、アゼスゲ、ノチドメ、ニガナ、ヤハズエンドウ、カラスノエンドウ

(採)

、ノコンギク、ヨメナ、ヒメヘビイチゴが採集され、特に路傍に匍匐するヒメヘビイチゴの群落や山麓の灌木中に望観できたウツギの開花が印象的である。

月見の田舎もなくなり、二ツ屋を過ぐる頃より採集者の眼は木本にむけられ、ハクウンボク、エノキ、エゴノキ、ハイイヌガヤ、タニウツギ、サワアジサイ、ツノハシバミ、サワグルミ、ヤマボウシ、ウリハダカエデ、クマノミヅキ、ムシカリ、ホウノキ、マユミ、ホツツジ、マルバマシサク、サイゴクミツバツツジ、イヌシデオオバクロモジ、イタヤカエデ、コアジサイ、ツルウメモドキ、ダンコウバイ、ニワトコ、シシウドなどが採集され、オオナルコユリ、ハダカホオズキ、ゴマナ、ヤマブキショウマ、エンレイソウ、キツリフネソウ、ミツバツチグリ、カラハナソウなどの草木が採集された。特にカラハナソウは、本県に於ては大野郡西谷、若狭方面で採集されているのみで嶺北では珍品であることを教えられた。

長蛇の列の参加者一行は、若狭88ヶ所第13番の礼所言祭地蔵の周囲で採集植物の整理を行つて午後1時木の芽峠へと出発した。

ハクウンボク、ウツギ、コマユミ、ミヤマズミ、サワアジサイ、サワフタギ、ミヤマハハソ、ヒメヤシヤブシ、ブナ、ハリギリ、ネジキ、アオハダ、ミズミ、コアジサイ、アズキナシ、エゴノキ、マユミ、タラノキ、オオバクロモヂ、イタヤカエデ、ハウチワカエデ、イヌガヤ、クリ、ニワトコ、サルナシ、ホウノキ、ヤマブキ、シシウド、キンキマナザクラ、ムシカリ、ナナカマド、コシアブラ、ナツツバキ、イヌツゲ、アスナロ、アケビ、オニグルミ、イボタノキなどの木本を主として、その下層に、オクノカンシスゲ、サカゲイノデ、キモンヒヨドリバナ、ミヅタビラコ、テンナンショウの種類、オカトラノオ、キクバドコロ、マツブサ、ヤマブキショウマ、ボタンヅル、オトコヨモギ、クマイチゴ、サラシナショウマ、ミヅタマソウ、ウバユリ、アマドコロ、キンミズヒキ、アオツヅラフジ、トリアシショウマ、オオカニコウモリ、スミレサイシン、ヤマジノホトトギス、ヤマソテツ、クルマバハグマ、ヌカボシソウ、ミヤマナルコユリ、アキノキリソウ、ヤマボクチ、ヒキオコシ、ドクダミ、ヨモギ、トリカブト、オオイチゴツナギ、ササユリ、ノブキなどの草木が自生している。採集や植生の観察を続けて峠の茶屋ならぬ一家屋につき親切なおばさんに一言接して峠を越し、杉の林の中の植物を採集及び観察しながら新保にむかう。下層の草木として、

サイハイラン、ジユウモンジシダ、アカソ、トウバナ、ヤマクルマバナ、イノコズチ、カキドウシ、カタバミ、ノコンギク、アキギリ、クズ、アカネ、スズメメヤリ、コウゾリナ、イタドリ、ミツバショウマ、クサアジサイ、シャク、トキワイカリソウ、ミヤマカタバミ、ウワバミソウ、クルマムグラ、スミレサイシン、コメガヤ、ノチドメ、クサソテツ、ヘクソカヅラ、コナスビ、ウツボグサ、ドクダミ、チヂミザサ、テンニンソウ、チャルメルソウ、ミヅシダ、イノデモドキ、フタリシズカ、ショウジョウバカマ、カワラナデシコ、などや、木本として、ムラサキシキブ、ヒメアオキ、コマユミ、イタヤカエデ、ネムノキ、ハゼノキ、イヌシデ、アカシデ、イヌガヤ、ウシコロシ、ユキツバキ、ヤマフジ、ニガキ、ウワミズザクラ、コバノガマズミ、ヤブコウジ、スイカズラ、サルトリイバラなどが観察された。

(採)

山の傾斜もゆるやかになり、新保の田園が開らける所より路傍には、ウシハコベ、ユキツバキ、チチコグサ、ナワシロイチゴ、ニラ、サギゴケ、ヤマニガナ、カラムシ、アサツキ、コマツナギ、コウゾ、ツタウルシ、カラスノエンドウが観察され、山麓帶では、ヤマフジ、サルナシ、マタタビ、マツブサ、ノブドウ、サンカクズル、ツタ、クマノミズキ、コバノトネリコ、ヤブムラサキ、ハンノキ、シラキ、オオバアサガラなどが採集された。

本日の植物採集について要約するなれば、木の芽峠の頂上に於て、ブナ、ミズナラ及びハクウンボクの自生が印象的であり、トラノオシダ、サトメシダ、オオサトメシダ、ミヅシダ、クサソテツ、リヨウメンシダ、フモトシダ、ヤブソテツ、サカゲイノデ、イノデモドキ、クジャクシダ、シシガシラ、トガリバメシダ、ヒメワラビ、ヤマイヌワラビ、ヒロハイヌワラビ、ヤマイヌワラビ、ヒロハイヌワラビ、ヤマソテツなどシダの類が多い事である。

尚、葉原地区の人家附近で林先生がキク科のハキダメギクを採集された本県では始めての採集との事であつた。

(斎藤佐一 記)

木ノ芽峠採集記

昭和35年8月8日 午前5時30分福井発の列車で荒川先生以下5名出発。途中堀館長等乗車。嶺北勢併せて約10名、敦賀で待つこと約1時間。いつもの事ながらもう少し早く連絡ができたら時間の空費が少なくてすむと皆残念がる。9時30分三方駅で下車、地元中学の先生の案内で中学等併せて総勢約30名、そのためか三方湖を右手に、左は梅畠といった景色も冷風も満員バスでは如何ともしがたく、10時海山で下車、全員ほんとうに一息入れての休息、しかし時間の関係もありただちに山麓帶の採集にかかる。主な採集品は次のようなものであつた。

エノコログサ、メヒシバ、オヒシバ、イヌビエ、ヤマカモジグサ、イヌビユ、アオビユ、イノコヅチ、イヌタデ、イタドリ、ギシギシ、ミチヤナギ、アメリカセンダングサ、トキンソウ、オオアレチノギク、オニタビラコ、ノコンギク、オグルマ、カラムシ、アミガサソウ、コニシキソウ、ヤブジラミ、ツボクサ、チドメグサ、コゴメガヤツリ、ヤマイ、ムラサキカタバミ、イヌワラビ、イノモトソウ、トラノオシダ、オニヤブソテツ、タチシノブ、ウツギ、ナツヅタ、クサネム、ネコハギ、クルマバナ、ニワゼキショウ、エビモ、ナワシロイチゴ、ティカカヅラ、ツルシノブ、アキカラマツ、アケビ、キツネノマゴ、

梅丈山は三方町がハイキングコースの一つとして宣伝しているためか、観光道路とかいう道が中腹を縫うようになだらかな勾配で続いている。しかし我々採集を目的とした者にとつては陽地